

1. 略歴

1995年3月	東京外国語大学外国語学部ロシア・東欧語学科チェコ語専攻卒業
1999年3月	東京外国語大学大学院地域文化研究科博士前期課程修了
2002年6月	パリ第4大学第3課程スラヴ研究科DEA取得
2003年3月	東京外国語大学大学院地域文化研究科博士後期課程修了
2003年10月	北海道大学スラブ研究センターCOE 研究員
2004年4月	東京外国語大学大学院国際文化講座助手
2005年4月	武蔵大学人文学部ヨーロッパ比較文化学科専任講師
2008年4月	同准教授
2010年4月	立教大学文学部文学科文芸・思想専修／文学研究科比較文明学専攻准教授
2016年4月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

中東欧文学、比較文学

b 研究課題

20世紀プラハの文学・美術

c 概要と自己評価

現在、主に以下のテーマに基づき、研究を進めている、

- (1) プラハの前衛芸術
- (2) 中東欧における文学史記述
- (3) 翻訳の諸問題

長年研究を進めてきた(1)に関しては、単著『カレル・タイゲ ポエジーの探求者』(水声社、2017年)に結実することができ、一定の到達点を示すことができたように思われる。具体的には、チェコ・シュルレアリスムを両大戦間期の中東欧の文化状況に位置付けることで、構成主義的傾向と詩的想像力の融合の傾向がカレル・タイゲの思想に裏付けられることを明らかにした。

(2)に関しては、第一段階として「シレジアの文学史記述」を取り上げ、多言語空間の文学史記述に伴う受容および流通の問題を多面的に検討している。今後は、ボヘミア、モラヴィアの諸地域の文学史記述も射程に入れ、中東欧全体の問題としての文学史記述を掘り下げていく予定である。

(3)については、多言語空間であるプラハの翻訳の位相について、Pavel Eisnerの事例を中心に研究を進めている。ユダヤ系の翻訳家にとって、チェコ語とドイツ語の言語空間を架橋する翻訳という行為は「領域化」の様相を呈しており、その問題系をさらに分析していく予定である。また文芸翻訳の実践を通して得た知見も研究に反映することができればと思っている。

d 主要業績

(1) 著書

- 単著、阿部賢一『カレル・タイゲ ポエジーの探求者』水声社、2017.12、全340頁
共著、都甲幸治ほか『世界の8大文学賞 受賞作から読み解く現代小説の今』立東舎、2016.9
共著、藤井光ほか『文芸翻訳入門 言葉を紡ぎ直す人たち、世界を紡ぎ直す言葉たち』フィルムアート社、2017.3
共著、小野尚子・本橋弥生・阿部賢一・鹿島茂『ミュンシャ バリの華、スラヴの魂』新潮社、2018.1

(2) 論文

- 阿部賢一「ウィーンとプラハ 「新しい芸術」を探し求めて」、池田祐子編『ウィーン 総合芸術に宿る夢 西洋近代の都市と芸術4』竹林舎、381-402頁、2016.7
阿部賢一「プラハのシュルレアリスム 複数の「現実」、複数の「イズム」」、『ユリイカ』48巻10号、173-182頁、2016.10
阿部賢一「「空いている椅子」、あるいはリハルト・ヴァイネルの「書かないことの不可能性」をめぐる」、『れにくさ 現代文芸論研究室論集』7巻、114-124頁、2017.3
阿部賢一「チェコ・シュルレアリスムの《ポエジー》 カレル・タイゲを中心に」『文化交流研究 東京大学文学部次世代人文学開発センター研究紀要』30巻、67-73頁、2017.3

阿部賢一「The era of "Slav epic" ムハをめぐる複数の文脈 ブラハ、スラヴ、そしてフリーメイソン」、『芸術新潮』
68巻3号、48-53頁、2017.3

阿部賢一「ヨゼフ・チャペックと戦争」、『チャペック兄弟とその時代 カレル・チャペック誕生125周年、ヨゼフ・
チャペック没後70周年記念論文集』日本チェコ協会・日本チャペック兄弟協会、149-162頁、2017.3

(3) 書評

ベルンハルト・シュリンク『階段を下りる女』（新潮社、2016年）、共同通信、2017年8月

ボレスワフ・プルス『人形』（未知谷、2017年）、『東京新聞』、2018年3月18日

ボレスワフ・プルス『人形』（未知谷、2017年）、『すばる』、2018年5月号

Marijeta Bozovic and Matthew D. Miller, eds., *Watersheds: Poetics and Politics of the Danube River* (Boston: Academic Studies
Press, 2016), 380 pp., *Acta Slavica Iaponica*, Vol. 39, pp.99-100, 2018.5

(4) 学会発表

国内、「カルロ・スピノラの物語：ヤロスラフ・ドゥリフ作品における日本」第一回日本チェコ文化会議、チェコ大
使館、2016.6.12

国際、*Inspirations of East in Central Europe: Karel Teige's Case*, European Network for Avant-Garde and Modernism Studies,
Université de Rennes, 2016.6.21

国内、「カフカにみる「チェコ」文学との交点 ニュムツォヴァーとランゲルを介して」、日本独文学会 2016年秋季
研究発表会、関西大学、2016.10.21

国内、「中欧をつなぐ点と線、あるいは文化的連続性」、シンポジウム「中欧の現代美術」、東京大学、2017.6.4

国内、「集英社高度教養寄付講座 第12回講演会 ヨーロッパの文学」、東京大学、2017.12.9

国内、『シレジア』の文学史記述に関する横断的研究「スラブ・ユーラシア地域を中心とした総合的研究」プロジ
ェクト型共同研究報告会、2017.12.10

国内、「チェコ語圏からの視点、シレジアの文学史記述」、「シレジア」の文学史記述に関する横断的研究に関する研
究会、北海道大学、スラブ・ユーラシア研究センター小会議室、2018.3.3

国内、「翻訳家 Paul/Pavel Eisner の夢想した「共生」、「プラハとダブリン、亡霊メディアの言説空間——複数の文化
をつなぐ《翻訳》諸相」第4回研究会、2018.3.6

国内、コメンテータ、ミニシンポジウム「中東欧の音楽作品を聴く—音楽、言語、歴史をつなぐ鑑賞の手引き」、日
本スラヴ学研究会、東京大学、2018.3.29

(5) 予稿、会議録

阿部賢一「カフカに見る「チェコ文学」との交点 ニュムツォヴァーとランゲルを介して」、『独文学会研究叢書』Nr.
123、35-44頁、2017.9

(6) 啓蒙

講演（招待）、「翻訳から見るブラハの文学」、駒澤大学、2017.6.23

講演、「チェコ文学を読む、語る。」、本の場所、2018.1.21

講演、「カレル・タイゲ」、シス書店（恵比寿）、2018.2.18

(7) 翻訳

ヤン・ヴァイス「遅れる鏡」、『たべるのがおそい』第2号、書肆侃侃房、2016.10

カレル・ヤロミール・エルベン『命の水 チェコの民話集』西村書店、2017.10、全174頁

イジー・クラトフヴィル『約束』河出書房新社、2017.1、全298頁

ビアンカ・ペロヴァー「湖」、『文藝』2018年春季号、2018.1、375-385頁

マルケータ・ブルナ＝ゲブハルトヴァー「ピプスイから見たフラバル、フラバルから見たピプスイ」、『れにくさ』第
8号、2018.3、207-220頁

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、東京外国語大学（2009年～）

(2) 学会

国内、日本スラヴ学研究会、企画編集委員長、2016年6月～現在に至る

(3) 学外組織(学協会、省庁を除く)委員・役員

国内、翻訳コンテスト審査員（チェコセンター）、2016年～現在に至る